令和3年度

「言語聴覚の日」イベント報告



福島県

福島県言語聴覚士会では、2021年11月14日(日)に福島民報新聞へ

「話す、聞く、食べるリハビリテーションのスペシャリスト」と題して、

言語聴覚士を県民の皆さんに知っていただく為に、新聞1面広告を企画し実施いたしました。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えず、今年もイベント開催が難しい状況が 続いておりましたが、「お家時間が長く続くコロナ禍の今だから、新聞広告を出して、

ゆっくりと県民皆さんにみていただき、言語聴覚士を知ってもらうのはどうだろう?」という 阿久津会長のアイディアによって、今回の取り組みに至りました。

企画にあたっては、県士会広報部や役員を中心に話し合いを行い、言語聴覚士を全く知らない方にも わかりやすい記事構成案を立案いたしました。

今回掲載に協力いただいた福島民報社は福島県に根ざした地元の新聞社です。

我々から新聞社へ企画を持ち込みましたが、掲載形式、掲載内容については新聞社から様々提案をいただき、 県民の方に興味を持っていただく形に企画案が作成されました。

新聞広告というと、一般的な広告のイメージだけしかなかったのですが、

新聞社から"広告は記事形式を取り入れることで、多くの情報を伝えることができる"とご提案をいただき、 完成したのがこの掲載内容です。

掲載後、県民の方から反響のお葉書をいただいたり、関連団体の方からも声をかけていただいたり、

患者さんや家族の方からの反応もいただいたり、1面広告の反響はとてもおおきなものでした。

先行き不透明なコロナ禍の現在、不安で窮屈な毎日を送っていらっしゃる方が多いと思います。

今回、福島県言語聴覚士会では、「今だからこそできることはないか」という前向きな気持ちで イベントを企画し、取り組ませていただきました。

今後も、言語聴覚士会を必要とする方へ、必要な手が届くよう、啓発活動に励んでまいります。

「2021年度言語聴覚の日 開催報告」

会 長 阿久津由紀子 副会長/事務局 志和智美



資格を持ち、県内で活動

に「言語聴覚士」の国家に「言語聴覚士」の国家

自由となった方々に対

いったコミュニケーショ

ハピリテーション専門職

言葉は人間らしさの最

個島県言語聴覚士会

阿久津由紀子会長に聞く

五年に一般社団法人化 する仲間の職能団体とし

し、現状の評価や機能回

百六十七人です。 言語聴覚士は病気や事 九月現在の会員数は 発足しました。二〇一

コミュニケーション支える

(5)

声・言語や聴覚、認知と故、生来の障害などで発

士、作業療法士と並ぶ、リ を提供します。理学療法 段の提案など必要な支援 復に向けた訓練、代替手

> 言語機能はじっくり時間 要な場合もありますが、 ら年単位の長期支援が必 たるものです。数カ月か

> > 躍していますが、医療や

県内でも大勢の言語聴

会の幅広いニーズに応え 介護、福祉、教育など社 覚士が医療機関などで活 では生まれつきの障害

「コミュニケーション」

発声の訓練、補聴機器の 害のある方に聴力検査や

どの発達障害への対応も

ペクトラムや学習障害な 応する。近年は自閉症で (どもり)の相談にも対 が言えない」など発達途 得を後押しする。「サ行 の指導を行い、言葉の獲 文字の習得を促す」など コミュニケーションを成

調整などを行う。

事故、加齢に伴

う後天性

では、言語機能の発達に

も連携・協力しながら総

気を付けているのはそ

ている。

になることです。まずは

ら話を聞いてどの程度分 声を掛けて相手の反応か の人の「一番の理解者 訓練を行っています。 食べることが困難となる なる「構音障害」、口から や手術に伴い発音困難と 能障害」や舌などの麻痺

美味しい物を食べること

きるよう支援を続けます。 を退院後は地域で生活で も携わっているので、病院

音があり、言葉を話し、

で人生は豊かになります。

合的に支援し

保育士などの関係職種と 増加している。理学療法

士や作業療法士、教員

「嚥下障害」を抱えた方に

サポートをすることが重ション環境の調整などへの

の関わりや、コミュニケー 立て、機能向上に向けて を手助けしていきます。

との因果関係が明らか

になっていないが、難

表す数字)とともに提 者が何%減少するかを リハビリは明確な目標を

要です。訪問リハビリに

「子どもの発達の遅れ」

よう支援している。

人が、社会生活を送れる わる機能に問題を抱える

こえ」は難聴など聴覚障 の訓練を指導する。「聞

遅れーといった言語に関 聞こえ①子どもの発達の

器官の機能を高めるため

ケーション②摂食嚥下③ としている。田コミュニ

の障害に対し、咀しゃく

して飲み込むのに必要な

上の発音の悩みや、吃音

み込めない、むせるなど

摂食嚥下」はうまく飲 を組み立てて指導する。 改善に向けたプログラム

んげ)の障害を主な対象 べる」などの摂食嚥下(え ケーションの障害や、「食 く」といったコミュニ 聴覚療法は、「話す」「聞

> での背景を把握し、機能 いて、その症状や発症ま の発声・発音の問題につ

> > どもに「ことば等による 遅れや偏りがみられる子

立させる」「語彙や文法、

企画·制作/福島民報社 広告局

品 聴覚士による 言語



電気式人工喉頭を使用した発声練習を支援する言語聴覚士(中央)

る ながら「話す・聞く・食べ 一同、努力していきます。 との信頼関係を大切にし 人やご家族、地域の皆様 していくものです。ご本

てコミュニケーションを 心をつなぐ」役割によっ 士は「伝える、支える、 足しています。言語聴覚 るにはまだまだ人材が不

営語聴覚士の仕事の魅力を語る 阿久津会長

県は二〇一九年に失語

の円滑なコミュニケー

養成講座で誕生 失語症の支援者 けたサポートや、家族と

いたいと思います。 語聴覚士を目指してもら 覚療法に関心を寄せ、 です。多くの人に言語聴 考えるやりがいある仕事

ケーションに支障がある ため、周囲の人々との会 多くは日常的なコミュニ している。失語症患者の よる失語症を抱えて生活 が脳卒中などの後遺症に 福島県では推定三千人

の付き添いなど自立に向 の外出に同行し、通院時 た。支援者は失語症患者 号となる支援者が誕生し 県言語聴覚士会が講習会 で、県から委託を受けた 語症の人をサポートする 雅成事業を開始した。失 を開催している。翌年の 支援者を獲成する事業 証向けの意思疎通支援者 月には東北地方で第

施設、特別支 ション専門病 ション科、リ は大学病院や や誤嚥(えん) し、高齢者向 施設を訪問 ど地域の公共 で活躍してい る幅広い領域 教育機関に至 健・福祉から 援学校など保 リテーション 介護老人保健 機関のほか、 院などの医療 ハピリテー ハビリテー 総合病院のリ 施設やリハビ

る。公民館な けの難聴対策 話や体操の指 するための講 性肺炎を予防 テーションを専門に担当 抱える小児のリハビリ しています。 べる」という分野で障害を

どのその子に適した訓練 発音の方法を教える」 因を探り、「絵本を使って 全てが同じという人は2 いる原因はさまざまで 患者さんが課題を抱えて 言葉を引き出す」「正しい 子さんの抱える症状の原 人といません。まずはお ノログラムを考えます。 療育前まで音を理解で 発達の問題や難聴など 聴を軽視しないよう啓も う活動もしています。 との仕事に就いた当初

す。長期的な支援の過程 れられるから、続けられ で多くの成長や感動に触 した。難聴の患者さんと 今年で二十八歳になりま に担当した子どもさんは 生の付き合いになりま

語の遅れを軽減できる。 で療育を開始すれば、 療機関や専門家が少な とくに難聴は早い段階

動に力を入れていく

ある。いち早い難聴の発 クの受検率は高い水準に こともあり、本県の新ス 〇三 (平成十五) 年度に グ検査(新スク)を二〇新生児聴覚スクリーニン 担当する言語聴覚士の役 聴器や人工内耳の調整を 開始した。全国的にも早 割が非常に重要だ。 療育のプログラムでは補 見と療育開始により、言 い時期に体制を整備した 県は、難聴を発見する

かってもらえているかを 音やことば理解する能力育てる 評価し、様々な表情やジェ 副会長 山田 奈保子 事に誇りを持っています。 喜びが共有できるこの仕

か。補聴機器を付けて音の 活に使える音にしていく 度立ち会っても感動しま がパッと明るくなる姿は何 機器を付けたことで表情 変えるできごとです。補聴 す。出会えた音をいかに生

「ことば」、「きこえ」、「食

できるよう家庭と連携し ことばの持つ意味を理解 レーニングが始まり、音や 存在を知ることからト す。成人の方に対しても難 てその能力を育てていま 新スクの受検を 早期発見、

療育に

め「周囲とうまくコミュ もに関する課題は早期の なる」など幼少期の子ど ニケーションがとれな い」「言語の発達が気に 難聴や発達障害をはじ

発見、対応が欠かせない。 その一方、対応できる医 語の発達を後押しする活

認知症予防の

12のポイント Mid life (45-65歳未満 5% N. 影響が生じる「高次脳機 うように言えない、理解 患や外傷で言語中枢がダ 語症」、記憶や注意などへ できなくなるなどの「失 メージを受け、言葉を思 脳卒中など脳血管の疾



相手の一番の理解者に

ると伝えます。医療保険 血管疾患では最長百八十 が適用される期間は疾患 状況や悩みを理解してい スチャーを交えて相手の の種類によって異なり、脳

がら社会復帰に向けた一歩 障害を理解してもらいな 関係を築き、ご家族にも 日間ですが、その間に信頼 一〇二〇年、世界の

果があるとの研究成果 因を改善することで約 関する十二のリスク要 難聴があり、認知機能 が発表された。 40%発症を予防する効 五大医学雑誌の一 リスク要因の中には ノセットに、認知症に

児期、中年期、更年期の時期に修正する必要 研究では、

人生のど なくなったら認知症患 危険因子を持つ人がい と人口寄与割合(その に分けて、相対リスク

認知症予防に 難聴ケアが大切! 症する最大のリスクと

参加

支える、心をつなぐ。

言語聴覚士って?

言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関 など幅広い領域で活動し、生活の中で大切な要素 「話す、聞く、表現する、考える、食べる」ことに問題 を持つ方とそのご家族が豊かな社会生活を送れる よう支援するリハビリテーションの専門職です。

私達は、地域の皆様のことば、きこえ、食べること に関するお困りごとに、専門的サービスを提供する ことによって、地域社会に貢献してまいります。



般社団法人 福島県言語聴覚

[事務局] 「〒960-1101 福島県福島市大森字柳下16-1 社会医療法人 秀公会 あづま脳神経外科病院 リハビリテーション部 言語聴覚療法科 内 ☎(024)546-3911 FAX(024)546-9555



福島県地域医療復興事業 福島県言語聴覚士会

「吃音の基礎知識と その対応について」

由紀 先生 講師:原

(北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻



2021年12月5日(日) 10:00~12:00(受付9:30~)



QRコードかこちらのURLより申し込み下さい https://forms.gle/r8QjJkhVBvMEhRBx8



締め切り:2021年11月28日(日) 17:00まで ※講演会当日のZOOMのURLや注意事項はお申し込み後にご連絡致します

お問い

福島県言語聴覚士会学術部 担当者:斎藤佐和 黒澤大樹

E-Mail: fukushimast.gakujutsu@gmail.com